

金シ該局再置ヲ願出ノ計畫中ナリト云フ

鑛山ノ景況ハ是ニテ了ルヘシ今茲ニ右ニ述タル中ヨリ悦フヘク賀ス
 へキノ點ヲ摘テ之ヲ結ハンニ我鑛業モ漸ク眞正ノ境ニ入り其電信ヲ
 望ミ電話器ヲ設置スル等確實遠大ヲ期スルノ點ニ達セリ嗚呼昔日ハ
 鑛山モ山師ト卑稱シテ博徒ニモ同類視シタルモノ今ハ富豪者又ハ巨
 萬ノ金ヲ集ムルニアラサレハ行業スル能ハストナリタルノ一事ニテ
 我鑛業ノ爲メニ悦フヘク又國家ノ爲メニ賀スヘキナリ(完)

○北支那及朝鮮工事概況

工學士 久米民之助

去る四五月中支那北部及朝鮮邊を巡回致せしに付き僅か見分の御話
 を爲し諸君の支那及朝鮮に對し後來如何の御見込まつき御參考迄に
 卑説を陳ふへし尤も四月十九日敦賀丸にて長崎解纜朝鮮仁川支那芝
 罌^フに寄港し太沽^{ダイク}より白河^{ペーホッ}を糊^{レンチン}り天津^{チンチン}より着し同所に四五日滞在の上北
 京に向ひ兼て道路の惡しきを聞きし故視察の爲陸行を爲し楊村張家

灣を経て北京に至り是れにも僅か四五日滞在の上名所舊跡見物と出掛け昌平州に行き有名なる明の十三陵を見物し南口に出て八達峯に登り万里の長城の偉觀を看て西山に廻り碧雲寺を見物し昆明湖に至り萬壽山玉泉山等を眺め卒り北京に歸り通州より舟路白河を下り天津に戻り太沽より再び敦賀丸にて仁川に戻り漢城に一週日滞在の上仁川より肥後丸にて六月三日釜山を徑て歸朝致せしに付き僅か一ヶ月余なれの事情の調へ粗なる段々御容赦あらんとを希望せし諸工事につき御話致さんに過去現在未來と區別と相立て申すへし過去の工事につき支那の有様は如何支那の過去に於ては工業上實に盛大を極めたり先づ天津の城壁等の之れを措き北京城の計畫たるや規模宏大にして目を驚かす許なり周圍の城壁の高五間上幅八間余にして壁上四輛の馬車と駢驅せしむるを得へし黒色の煉化を以て堅固に築造し諸門の構造之れに準して巨大なり市街は盡く正角筋にして

道幅大街ハ三十間小街ハ十間馬車道人道を區別し往來を安からしむ又三尺角大の下水あり往古是の注意ありしハ不思議に思ハるゝ位なり皇居の建築一々奇觀にして口舌の盡す所ハあらず金樓玉閣比々皆是れなり柱石の形より家根の風に至る迄皆な變化ありて一つも同形なし其設計の廣き技術師に乏しからさりしを知る造家學士一と度ハ目撃せハ一々摸寫して遺す所なかるへし生是れに於て本邦の建築の支那に及ハざる數歩たるを知る又道中の街道の如きも規模大にして道幅貳十間巨大の敷石を連ぬると數里に亘るあり河流に架する橋梁ハ概ね石橋なり穹窿形にして半圓最も多し卷石ハ角石を使ひ我東京の淺草橋萬世橋等の如く檢知石を以て危く組み立てたるものを見ず控石を据へ割栗を以て密着に築造せしハ學理を外れす感すへきなり○明の十三陵ハ驚嘆するの外なし余其内の一陵に詣れり最初に五つの入口を有する門あり大理石を以て造る柱の太さ三尺角次に石橋あり

マイブム

又門あり入口三ヶ所煉化と以て造る次に尙煉化の門あり四方に入口あり中央に大明長陵神功聖德碑とあり裏に哀明陵三十韻乾隆五十年御筆と記す表裏喜憂の文と記し忽ちに盛衰興亡を感せしむ夫れより獅子駱駝象麟馬并に武官文吏の大理石に大なる彫物あり皆二間四方内外の一塊にして道の左右に駢列す次に亦大理石の門あり入口三ヶ所次に石橋二ヶ所渡りて漸く廟に到る先つ煉化の門あり閉して入る能はず依て番人に鼻薬を投して入場せられ右は碑樓あり順治十一年の上諭の碑を据ゆ夫れより陵恩門次に陶器作りの建物あり夫れより陵恩殿とす圓經三尺五寸高四間半の柱あり尙煉化の門ありて次に香燒所あり終に陵所に至る大なる城郭構にして穹窿の入口を登れり一
大石碑あり成祖文皇帝陵と大書す以上規模大にして粗なるの箇所も無きにあらされ共位置并に順序と乱さす面白く經營せしむ遠く本邦の淡味の構造なる神社佛閣の及ぶ所にあらそ其他の十二陵も推して

知るへし○萬里の長城の是れを音に聞こへたる通り馬鹿怪たる事アキ呆るゝの外なし高さ一丈六尺五寸幅一丈七尺五寸堅牢の石を以て築く壁上高五尺五寸厚一尺五寸の煉化造の欄あり三四尺間に弓銃の隙を設く或ハ山岳の絶頂に登り或ハ溪間の卑きに下り蜿蜒奔馳して際限ある所を知らす米人の調へに長城の瓦石の總容積ハ凡六十三億五千立方尺なりと云へり今是れを富士山の高さを一千四百丈とすれハ圓徑三町半の尖圓形ココロマの石塚ヒラミツを同高さ迄築くを得へし愚ハ愚なりと雖も野蠻草昧の時代にあつて險阻の絶頂に斯かク構造を爲すに莫大の材料を整へ夥多の人夫を役せしと其手配凡人の及ぶ所にあらむ故に余工事と賞せしとして其作業を稱する所以なり○有名なる圓明院ハ咸豐年間英佛の同盟軍乱入せし時甚た殘酷に打ち壞りしなるか其遺跡に於て頗る見るべきもの少からざる由なれとも其頃折悪しく修繕中にして入ると能ハさりしハ遺憾なりき是れハ佛工師の計畫に掛ると

云へり西洋風なりしものなり○昆明湖に到れり萬壽山玉泉山其他の
 建築善を盡し美と盡し壯觀、口舌の盡す所にあらず聞くならく是の西
 大後の離宮に宛てると此湖水に架する十七孔橋の如く十七の
 穹窿を以て架す大理石なり猪苗代湖の十六橋の足元にも追付かざる
 なり他にも奇橋少からず○西山の碧雲寺を見廻りしに諸門の位置堂
 宇の配置變化極りなし石造の彫刻精なる奇なる只感稱するの外なし
 我國未だ如斯建築の類似するものを見ざるなり依曰く支那の往古土
 木建築の事業盛を極めたりと

以上賞め立てたれども然るに現今の有様の如何と問へり言語全斷と
 答ふるの外なし今日に至り既成の事業頽壞の儘に捨置く故世人に輕
 蔑せらるるに尤なり是れより瑕瑾を少々申陳ふへし先づ白河の流れ
 の天津港に入る緊要の河筋なれども少しも改修を施さずなし蜿蜒日
 一日と盛なり加ふるに潮の満干もあれり漁船の太沽より天津迄六十

哩の所二日或ハ三日を費すとあり○天津北京間の道路支那第一等の國道なるが其道ハ如何と問ハゞ凹凸の甚たしき故畑の中を行ク方遙かに優る故に御者馬を勝手に驅リ廻して道筋一定せず割栗砂利を敷くとなく泥土なれの車輪爲めに填もれ急ク能ハと馬車も彈無き故身體躍りて或ハ頭を打或ハ手を曲け足を痛め腰を敲ク淺草通ハの片栗馬車も遙カ上等に位すヘシ南口より八達岑に通するの道ハ莫古街道にして堂々たる國道なるカ羊腸たる溪谷の河原を通して砂礫の爲困難營ふヘからず只驢駱駝の背をかつて行くを得るのみ○爰に北京の話を始めんに已ぬ惚れハの知らねと日本東京杯ハ花の都月の都とも稱ふるカ北京ハ糞の都或ハ不潔の問屋と申す方穩當ならん前にも申す通り道路の計畫ハ良けれ共支那の官民ハ盡く利己主義なれの惚て公益を思ハす先つ大道よて糞を便し尿を流ととを少しも意とせそ加ふるに^{ニラニン}葱と食するに付き臭氣の惡たしき鼻を穿ち肺を衝ク晴天の日

の塵芥となりて空中に飛散し降雨の節に流れて履を浸す實に恐れ入りたるものなり小生等呼吸器なければ市中と徘徊する能はず依て外國人の遊歩するもの一人もなし又折角の外水も埋もれて水疏通せず却て處々よ悪水を溜置して腐敗の臭堪へ難し室内も不潔なるが就中旅行中客店に泊らんに先づ夜具を携へざるを得ず便所の設なければ室内に糞尿を便す臭氣眠を妨く家屋の構造木造の藪く粗なる煉化を以て築く農家の下等なるに至つては泥土を乾かせしものと以て累々と積立てり○工事を起すに困難なるべきは貨幣の制定まらざる是れなり假令への北京の金錢天津邊に不通用なるは未だ怨むべきも北京すら内外に依て兩替の手を経されは通用の道なきは驚くべきの至ならずや北京猶ほ斯の如し十八省の僻地の未開亦想像だも及ばざる所なるへし○十三陵の如きも崩るれば崩るる儘なり橋梁等も落つれば落つる儘なり噫支那現時腐敗の極よ墮ち入りたる甚たしと謂へし

如斯呆きれ果てたれ共將來の如何と云はゞ支那將來に望みあると莫大なり是れ又妙ならそや改進を以て主とする李鴻章リハンチヤン伍廷芳等ウイチンファンありて言ふ所時事に的中せさるとなし總理衙門に頑固連多きを以て其説盡く用ひられされとも卒に大いゝ開くると疑を容るへきにあらず李氏の建議によりて鐵道建築の緒に着けり先づ開平カイピンより起工し既に二十哩余を竣へたり是の工事太沽と經て天津に至り更に北京に連絡するの計畫とす盡く落成せし農工商業大に面目と改め官民共に便益を感じるや必せり一と度ひ胸中に悟らひ瞬く間に十八省鐵道を以て蜘蛛の巣を造るへし過般電信の効用を感じてより方今支那全國に通する所なきに至りしを以て徴すへし李氏の萬事を處するに妙を得たるは今更不思議にあらされども此鐵道と築くに少しも贅費を爲さず曩きに亞米利加工師より積書を甲乙二様と區別を立て出せり九十清里間布設甲の一清里アイム凡四丁半三千〇五十六兩アイム一兩凡一圓四十錢但し機關

車三輛客車八輛荷車三十七輛共乙の一清里に付七千両機關車五輛上
 等客車二輛中等四輛下等十輛荷車五十二輛堤防高八呎幅二十七尺
 ラスト厚一呎六吋鋼鉄軌條橋臺の石或の煉化と以て給と云へり仕
 様粗なり探知の儘是れに記す之れを一哩に付筭を立つれの甲一萬四
 千圓乙三萬二千圓なり加ふるにスタンダードゲージ元準軌間(四呎八吋半)なり我國の三呎
 六吋の鐵道建築京濱間一哩に付十五萬八千圓神津間十三萬三千圓素
 より工事に精粗のあるも價格の高卑同日の論又あらざるなり然るも
 尙是れに甘せず直轄を以て工事を營めり新規の事業にて失策なきの
 流石李氏其名に耻ざるなり夫れ如斯安價に成効ノ見込なれハ利子の
 何割に廻るや知るへからず隨て富有の支那人一度其利益に感すれば
 傳播せざらんと欲するも豈又得へけんや鐵道の改進の要具支那の開
 明是れより進まん

○有名なる黃河を改修せんとし砲臺を經營する等勉むる所大いに望

あり余一日太沽の造船所と一覽せり船準を造り浚渫船を備へ造船の修築頗ふる力を盡せり右等支那政府の心付き初めし所なるか余か巡回せし地方水利土功建築等利益の事業甚た多し支那國內自今以後實は事業は乏しのらざるなり

是れより朝鮮の事業を聊か申述ふへし朝鮮の如何朝鮮の過去に事業なし現在に無し未來にも見込なしと一言すへきのみ全國の都漢城とも申すへき所か僅か王居丈の家らしきも其東西南北の門の支那風の建物にて少しく細工位にあれ其他の民家の勿論大臣ても將軍ても石塊を灰泥にて積み上げ藁と葺きて雨を防ぐ位にて一室中に父子兄弟夫妻混居す余一日南山に登りて全府を下觀するに兎ても人間の棲家との思われざるなり城壁なとの丸で小供の玩弄物の如し文祿年間豊太閤の征韓何の難きとあらんや人民生活の度卑く無識無氣力且無錢なり是の貧乏國何る事業のあるへきや朝鮮命脈三年の評あり夫れ或

然らん尤も咸鏡道元山の邊金礦あり之を採掘せり一時僅かに頭上の蠅を追ふへきも今日の疲弊到底救ふへきにわらず只燒石と水と思ふへきのみ

諸段々御話の末爰に結末に申上げ度き前申す如く支那の東洋の大工場なれり國の未開は乘し歐米人にのみ壟斷の利を占めらるるなり一葦帶水の日本人決して傍觀せるとなく今日より學識經驗の二者を備へ本邦狹ふして事業遠からず欠乏すへけれり支那に出稼するの御心掛あらんとを切に希望す但し朝鮮の無益に付足を踏出そり勿論漫遊さへも思止まるへきなり聊諸君の東洋工事上御參考の一助にもと下らぬ鏡舌平に其罪を謝す

○論説及報告

砲艦鳥海號ノ畧説

東京石川嶋造船所
早田喜勉